

これがあれば、きっと納得！資料収集名人になろう 教材「天気を予想する」 武田康男 文

本単元で育成する資質・能力

コミュニケーション能力

第5学年1組 男子14名 女子13名 計27名

研究主題

対話を機能させ 考えを深める学びづくり
～ 言葉による見方・考え方を働かせ、学び合いのある授業を通して ～

1 単元観

【学習指導要領との関連】

本単元は、第5学年及び第6学年「C読むこと」の内容(1)ウ「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読みだりすること。」を受けて設定したものである。

【本教材の特性】

本教材の特性として大きく3つ考える。

- ①本教材には文章全体を貫く「問い」はなく、部分的な「問い」に対する「答え」から新たな「問い」を生み出していく構成となっている。このことは読者の思考に沿いながら筆者の主張へと徐々に近づけていく論の展開であるといえる。
 - ②本教材の最大の特徴は、複数の資料を多用している点である。特に表やグラフは本文と関連付いたものとなっているため、叙述の根拠となる資料箇所と十分対応させることで、読む力を育てることができる。
 - ③本教材は、次単元「グラフや表を用いて書こう」と密接に関係している。そこで、文章以外の資料を活用した説明の良さや、効果的な資料選定の重要性を考えさせて、筆者の意図や表現の工夫を評価しながら読ませることが必要である。
- 以上の特性を生かし、本単元では読者を筆者の主張へと誘うための論の展開や資料活用のあり方を中心に、主張内容を評価していく学習活動を設定した。

2 児童観

【既習単元での実態】

本学級の児童は、これまでに筆者の主張となる形式段落を予測しながら説明文の基本三文型を意識して読む学習活動を積み重ねてきた。さらに1学期には筆者の主張に対して文章構成や表現上の工夫が効果的であったかを、読者の立場から評価して読む活動にも挑戦している。

【市販テスト及び国語科アンケート結果】

1学期末テストでの「段落と段落の関係」を問う設問の正答率は29.6%であった。誤答を分析すると、57.8%の児童が話題の変化に気付きつつも、明確に段落を区分けできていなかった。これは、アンケート項目の「問いの文・答えの文を意識しながら読んでいる」に対する否定的回答の割合が11%とやや高かったことも起因していると考えられる。

【対話を機能させた学びの実態】

1学期末のアンケート項目「必ず自分の考えを伝える」「相手が伝えたいことを考えながら話を聞く」では肯定的回答の割合がともに74%に対して、「色々な考えが出るように声をかけ協力する」項目は48%とやや低く、深まりのある学び合いという点において課題があるといえる。

【分析】

これらのことから、本学級の児童には意味段落を意識して筆者の主張を読み取らせる学習を繰り返すとともに、友達の意見と比べながら考えを広げ深めていく学び合い活動の充実が求められる。

3 指導観

(1) 単元全体を通して

本単元では、特に以下の点に留意して指導を展開する。

- ①単元を貫く学習課題として、『「自分でも天気を予想することが大切だ。』』と思える説明的な文章だったか。』』とすることで、読者の一人として自分の考えを明確にして読む学習活動を設定する。こうすることで、筆者からの情報を単純に受け入れるだけでなく、主体的に自らの意見を表明しながら読むことの楽しさを味わわせたい。そのためにも、他の児童と叙述等を根拠として積極的に意見交流させることで、自分の考えを広げ深めさせるようにしたい。
- ②筆者の主張をとらえるには、意味段落を意識して読ませることが重要である。そこで本教材文の特性である「問い」と「答え」の関係性に着目して文章構成をつかませる。その際、意味段落ごとに内容を要約させることで、筆者の論の展開の面白さに気付かせるとともに、筆者の主張をまとめさせるようにする。
- ③複数の資料がどの段落または文と関連しているかという観点で、資料を選んだ筆者の意図を考えさせながら読み進めていく。その際、他の資料(以前の教科書資料)やひと目盛の大きさを変えたサンプルグラフ等と比較させることで、よりよい資料選定の重要性についてじっくり考え、話し合わせたい。

学習に用いる言葉

説明文の基本三文型（頭括型・尾括型・双括型） 意味段落（部分的な「問い」とその「答え」）
要約（意味段落ごとのまとめ） 要旨（筆者の中心となる考え）

着目させたい表現・語彙

重要語句（理由 要因 手立て） 資料と文章をつなぐ表現（上の表は～ 上のグラフは～）
かぎかっこの効果（「今、ここ」） 考えの主体（わたしの考え わたしは ）
文末表現（大切にしたいものです）
グラフや表のキャプションにある表記（再構成）

(3) 対話を機能させる学び合いに向けた手立て（聴く・つなぐ・もどす）

- 選んだ立場とその理由・根拠を意識して友達の考えを聴くことを大切にする。
- 友達の考えに対して質問したり答えたりすることで、個やグループの考えをつなぐ。
- 常に「なぜ、筆者は～？」という発問によって本文中の叙述や構成の工夫にもどすことで、考えの根拠を明確にしていく。

4 単元の目標

- 筆者が主張する内容に関心をもち、筆者の説明方法や用いた資料に対して自分の考えをもって読もうとする。 【国語への関心・意欲・態度】
- 筆者の主張とそれを伝えるための工夫について、筆者の意図を想定しながら読み、自分の考えをもつことができる。 【読むこと(1)ウ】
- 文章の中での語句と語句との関係を理解することができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(オ)】

5 単元の評価規準

| 国語への関心・意欲・態度 | 読む能力 | 言語についての知識・理解・技能 |
|--|--|--------------------------|
| イ 「自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用する言語活動」を通じた指導 | | |
| ○筆者の主張やその主張に説得力をもたせるための説明方法の工夫に興味をもち、読者としての自分の意見を明確にしながら文章を読もうとしている。 | ○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、自分の考えを明確にしながら読んだりしている。 | ○文章の中での語句と語句との関係を理解している。 |

6 本校で育成したい資質・能力

| | 資質・能力 | めざす姿 |
|-----|-------------|--|
| スキル | コミュニケーション能力 | 根拠を明確にして筋道立てて伝えたり、相手の意図を考えながら聴いたりしている。 |

7 単元計画

(1) 単元構想図

これがあれば、きっと納得！資料収集名人になろう 教材「天気を予想する」

課題発見 (2)

【題名読みから】

- ・天気はどうやって予想されているのだろう。
- ・筆者は、私たち読者に何を伝えたいと思って文章を書いたのかな。

【本文の通読から】

- ・問いの文が3つもあるなあ。 ・とにかく、写真や図、グラフが多いぞ。



筆者は、なぜ「問い」の文をたくさん用いたり写真やグラフなどの色々な資料を取り入れたりしたのかな？

課題の設定 (1)

「自分でも天気を予想することが大切だ。」と思える説明的な文章だったかな。

情報の収集 整理・分析 (4)

3つの「問い」と「答え」の繰り返しに着目しながら、意味段落ごとに要約して読む。

本論部と結論部を関連付けながら、筆者の論の進め方(3つの「問い」と「答え」の繰り返しの効果、反証事例の効果)を評価して読む。

文章と複数の資料(写真や図、グラフ)を関連付けて読み、資料が効果的に使われているかを評価して読む。【本時】



まとめ・振り返り (2)

- ①筆者の主張と異常気象を報じる新聞記事を関連させながら、「自分でも天気を予想することは大切だ」と思える説明文であったかについて、自分の考えをまとめる。
- ②友達と互いの考えを交流し合い、効果的な資料提示の大切さについて振り返る。

【総合的な学習の時間】レッツ！吉小エコプロジェクト

エコ活動の必要性を促すような、効果的な資料収集に取り組む。

(2) 指導計画 (全9時間)

| 次 | 時 | ・学習活動 資質・能力の重点 | 評価観点 | | | ◇評価規準 (評価方法) |
|-----|---------|---|------|---|---|--|
| | | | 関 | 読 | 言 | |
| 第一次 | 1 2 | ・教材「天気を予想する」を読み、学習の見通しをもつ。 | ○ | | | ◇題名及び全文通読を通して内容や使用されている資料に興味をもち、進んで教材文を読もうとしている。(行動観察・ノート) |
| | 3 | ・説明文の基本三文型を意識して要旨をまとめ、単元を貫く学習課題を作る。 | ◎ | ○ | | ◇文章構成に着目して筆者が主張していることの大體を読んでいる。(ノート) ◇筆者の主張に対する読者としての意見をもとうとしている。(行動観察) |
| 第二次 | 4 | ・「問い」と「答え」の関係性に着目して、意味段落を要約して読む。 | | | ◎ | ◇意味段落を構成する各形式段落の中心文を明らかにしている。(行動観察) ◇意味段落ごとに要約している。(ノート) |
| | 5 | ・本論部と結論部を関連付けながら、筆者の論の進め方について自分の考えをもつ。 コミュニケーション能力 | | ○ | | ◇本論2において、天気予想の困難さを示す反証事例を取り上げた効果について吟味している。(行動観察・ノート) |
| | 6 | ・複数の写真資料を用いた筆者の意図を文章と関連付けて読み、自分の考えをもつ。 コミュニケーション能力 | | ○ | | ◇以前の教科書で使用されていた写真と比較しながら、効果的な資料の選び方について吟味している。(行動観察・ノート) |
| | 7 本時 | ・データ資料(グラフ)の特徴をとらえて筆者の意図を読み、データ資料の効果的な使い方に対する自分の考えをもつ。 コミュニケーション能力 | | ○ | | ◇授業者が作成したサンプルグラフ等と比較しながら、効果的なデータ資料の提示方法について吟味している。(ノート) |
| 第三次 | 8 | ・気象予報士である筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。 | | ○ | | ◇筆者の主張へと導く論の進め方や選定資料の良い点及び改善点を明らかにしながら、自分の考えをまとめている。(ノート) |
| | 9 | ・友達と互いの考えを交流し合い、効果的な資料提示の大切さを振り返る。 | ○ | | | ◇互いの考えを認め合いながら、読者を説得させる資料選定ポイントの工夫を考えている。(行動観察・ノート) |

8 本時のねらい

(1) 本時の目標

- ・データ資料(グラフ)の特徴をとらえて筆者の意図を読み、データ資料の効果的な使い方に対する自分の考えをもつことができる。

【読むこと(1)ウ】

(2) 本時の評価規準

- ・授業者が作成したサンプルグラフ等と比較しながら、効果的なデータ資料の提示方法について吟味している。

(3) 準備物

- ・ICT 機器(グラフと関連する形式段落の本文及びグラフ)
- ・複数パターンのグラフまたは表(各グループ、板書用)

(4) 学習の展開 (本時 7/9)

| 分 | 学 習 活 動 ○主な発問や指示 ・予想される児童の反応 | ☆指導上の留意点 ◆配慮を要する児童への手立て | ◇評価規準 (方法) ★資質・能力 |
|---|---|--|-------------------------|
| 5 | 1 既習の確認をする。 ○写真や図を上手にを使って説明するためのポイントを振り返ろう。 2 本時の学習課題の確認をする。 ○筆者はグラフも使って説明しているが、このグラフでよかったかな。 | ☆筆者も資料選びで模索していることに気付かせるために、以前の教科書の写真も提示する。 ☆読者として大事だと思う資料に関する事前アンケートの結果から、データ資料の使い方に対する課題意識を高めるように促す。 ☆グラフの内容と直結した形式段落を明らかにし、読みの構えをつくる。 | |
| 【めあて】筆者はよりよいグラフ資料を使って説明しているといえるだろうか。 | | | |
| 15 | 3 本文を音読し、分かったことを交流する。 ○筆者はグラフからどんなことが分かると述べているかな。 ・2001年から平均して200回以上突発的な天気の変化が発生した。 ○5段落を読んで、天気を正確に予想するのは難しいと思ったかな。 ・突発的な天気の変化の平均回数は増えているから難しいと思う。 | ☆5段落は天気を100%的中させる難しさの要因を述べているという視点をもって音読するよう指示する。 ☆突発的な天気の変化に関する3つの平均値を比較させることで、100%天気的中させるのが難しい理由を説明できるように支援する。 ◆「突発的」の意味を調べた上で、平均値の上昇が示唆することを考えさせる。 | |
| 考えを深める対話 | | | |
| 20 | 4 天気を正確に的中させる難しさを示すのにふさわしいグラフを使っているといえるかを話し合う。 ○平均の数値に注目すればいいのなら、もっとシンプルなグラフでもいいのでは？ ・シンプルの方が分かりやすい。 ・何か物足りない感じがする。 | ☆書き手の意図によって資料も選定されていることに気付けるよう、グラフ下の「再構成」という言葉の意味を調べるよう指示する。 ☆効果的な資料の条件を具体的に検討できるように、架空の人物による平均値のみで表したグラフまたは表を数種類提示し、比較させる。 ☆効果的だと思う資料を1つだけ選び、他の資料とは異なる長所や短所を明らかにしながら思考ボードを活用して交流するよう助言する。 ◆同じ資料を選んだ者同士で意見交流することで、自分なりの理由をもたせる。 | ★コミュニケーション能力 |
| ○なぜ、筆者はこのようなグラフを使ったのだろう。 ・5段落の「いつはげしく雨がふりだすのかを正確に予想するのはとてもむずかしい」といえるためにも、年ごとの回数も示したグラフの方は説得力があるから。 ・10段落にもあるように、「今、ここ」での天気の変化を自分も予想しようという思いになれるから。 | | | |
| <本時でめざす子どものすがた> 筆者は天気を正確に的中させる難しさを伝えるのにふさわしいグラフを使っている。 ・突発的な天気の変化の回数について十年ごとに平均を出して、回数が増えていることを示している点分かりやすくてよい。 ・年ごとの回数を棒グラフにしたとき、でこぼこしているところから毎年同じように突発的な天気の変化が発生するわけではないことが伝わってくるのでよい。 視点①平均値の増加傾向を指摘している。 視点②毎年の発生回数には規則性がみられないことを指摘している。 | | | |
| ◇授業者が作成したサンプルグラフ等と比較しながら、効果的なデータ資料の提示方法について吟味している。(ノート) | | | |

| | | |
|--|------------------|---|
| 5 | 5 学習のまとめをし、振り返る。 | |
| <p>【まとめ】 平均回数だけでなく年ごとの突発的な天気的发生回数を示したグラフを使うことで、天気をより正確に的中させることの難しさが、読者にもより強く伝わってくる。だから、筆者はよりよいグラフ資料を使って説明した、といえる。</p> | | |
| <p>○グラフなど数値の分かる資料を使って説明する良さについて、自分の感想をまとめよう。</p> | | <p>☆グラフを用いることで、文章による説明以上の情報も読み取れる良さに気付けるように、グラフ資料を使わない文章例を用意する。</p> |

(5) 板書計画

まとめ

天気はより正確に的中させるむずかしさが伝わってきた。だから、筆者はよりよいグラフ資料を使って説明している、といえる。

1時間に50ミリメートル以上の雨が観測された回数

185回 ↓ 194回 ↓ 219回

突発的な天気の変化の発生回数

※予想はむずかしくなっている

◆もっとシンプルな資料ではダメ？

※授業者作成のグラフや表

発生回数の平均は219回だけど
 219回の年は一回もない。
 多い年もあれば少ない年もある。
 2000回も発生していない年もある。

めあて

天気を予想する

武田康男

問い 科学技術の進歩や国際的な協力が進んでも、天気予報を百パーセント的中させることがむずかしいのは、なぜでしょう。

五段落の全文とグラフ

ICT 画面

1時間に50ミリメートル以上の雨が観測された回数
(気象庁資料をみちお再構成)

| | |
|------------------|-------------|
| 1981~ 1990年平均 | 185回 |
| 1991~ 2000年平均 | 194回 |
| 2001~ 2010年平均 | 219回 |

※授業者作成のグラフや表

1時間に50ミリメートル以上の雨が観測された回数

(回数)

185 194 219

1981-1990 1991-2000 2001-2010
(年平均)

(気象庁資料をはりみ再構成)